

▼フレンズコーナー

土木を描く ～コンクリートと人とのつながり

広野りおイラストレーション代表
イラストレーター
広野 りお



商業イラストレーションの世界では、建築系イラストレーターは多いのに対し、土木系と呼ばれる方を私はほとんど知りません。これは学ぶ入り口が異なることが大きな要因ではないかと思います。工学系出身の土木技術者に対し、芸術系大学で学ぶことの多い建築技術者は、デッサンや色彩構成などの芸術的要素を広く学びます。すなわち、構造から入る土木と、アウトラインから入る建築では、技術者の考え方も逆であり、すべてをアウトラインで捉える商業イラストレーションは、建築技術者の方がなじみやすいという事になります。

と、ここまでは前置きですが、建築系出身でも土木系出身でもない私が、どのように土木イラストレーションに携わっているかというお話から、その可能性を、ここまでの経験を交えて書いていきたいと思えます。

■広告から教育へ

ここからは私個人の経歴のお話になりますが、少々おつきあいくださいませ。元々商業デザイン学科出身の私は、百貨店広報部で広告のお仕事に携わり、その後携帯電話キャリアで営業統括、結婚・出産を経て、職業訓練・専門学校・高等学校で講師を行いながら、広告や教材のイラストやデザインをフリーランスで請け負ってまいりました。すなわち、土木に関してはまったくの素人であり、現在、土木イラストレーションに広く携わらせていただいていることをいまだに不思議に感じております。ただ、むしろ素人であるからこそ見えるものや、それまでの様々な経歴が広く役立っていることも間違いないと思っています。

■土木偉人かるた

それまでも風景の中に構造物を描く事は多くありましたが、はっきりとしたかたちで土木を描くことになったのは、「土木偉人かるた（土木学会発行）」の絵札のイラストのご依頼をいただいたことがはじまりです。実を言うと、それまでも教科書や教材のお仕事に携わっており、教育系のかるたを描くと伺って、深く考えずに気軽にお受けしてしまいました。ですが、構造物にはそれぞれに押さえるポイントがあるにも関わらず、イメージだけで描いてしまい、何度もダメ出しを受けたのは今では良い思い出です。逆に、偉人である土木技術者の服装などの歴史考証の部分については比較的得意な分野であり、多少なりとも私の知識が役に立てたことはうれしく感じました。

■概念としての土木

ところで「土木を描く」と言うと、「何を描くの？橋？ダム？」などと聞かれますが、実際には構造物だけをそのものズバリ描くことはほとんどありません。写真で十分ですし、構造物そのものの芸術性が高いので、被写体をそのまま切り取って描く必要がないからです。

ではいったい何を描くのか。具体的にいちばん多いのは、「人」です。構造物を、考える人、作る人、利用する人…。私たちが暮らしていく中で、誰一人として土木に関わらないひとはいません。ただ日常的に意識する人とそうでない人がいるだけのことです。



土木偉人かるた／土木学会

都市マスタープランの絵を描かせていただいたときには、私たちの日々の安全な暮らしが土木によって支えられていることを、より親しみやすく、わかりやすく伝えることの重要性をもっとも強く感じました。それには、専門的なアプローチではなく、直感的にビジョンを伝える必要があり、温かみのあるイラストが最適でした。かと言って抽象的過ぎてもとりとめがなくなってしまうため、構造物や建造物は成り立つ程度には正確に、装飾物や人物は親しみやすく、難しくはありませんでしたが、とてもやりがいのあるお仕事でした。

このように、人と構造物の両方が支えあって生まれる「土木の概念」を伝えることが、土木イラストレーションのもっとも重要な部分であると感じています。

■土木に親しむひとびと

見学会やウォーキングのイベントなど、一般の方が構造物や土木工事現場に親しむことができる機会を取材させていただく事もあります。(時には取材を忘れて、私自身が楽しんでしまっていますが、) 日ごろ「風景の中のオブジェクト」のひとつでしかない構造物を具体的に感じ、楽しむことができるこれらのイベントは、土木イラストレーションを描くうえでもとても貴重な機会です。一般の方々や子どもたちが、構造物や工事現場の何に驚嘆し、親しみを憶えるのか、自分自身の感想も交えながらイラストレポートにまとめたりもします。



瀬戸内安芸灘とびしま海道
ウォーキング大会
安芸灘とびしま海道連携推進協議会主催



藤沢市都市マスタープランより
象徴である江の島シーキャンドルは
実物よりも大きく表現した

こういったイベントは全国各地で様々な団体により実施されていますが、私がこれまで行った中でもっとも印象的だったのは、しまなみ海道を一昼夜かけて約80km歩く会です。自転車が通らない夜を中心に歩くため、時には橋りょうを独り占めできたり、また数十キロ歩いた橋上で見る朝日は、疲れも忘れるほどに感動的です。機会があればぜひ、皆さんも挑戦してみてください。

■空気を描く

話を少し戻します。冒頭で建築系イラストレーターについて触れましたが、ご存知のように建築系の方は完成予想図など描く方も多く、構造的な知識もお持ちなため、その完成度は非常に高いです。にもかかわらず、建築事務所や建築デザイナーの方から、都市や風景のイラストのご依頼をいただく事があります。理由を伺うと、「必ずしも正しく描く必要はなく、空気を描いてほしい」と言われます。そうです、先に書いた、都市マスタープランと同様の理由です。「空気を読む」という言葉がありますが、私の場合は「空気を描く」。数多の技術者の方により考えられ、技能者の方

により作り上げられてきた土木構造物を、それを利用する人々と空気を織りなして描く。今後もより多くの方々にその魅力を伝えていけるよう、そんな温かい空気を描いていきたいと思っています。

●土木偉人かるた

<https://www.jsce.or.jp/publication/detail/detail.asp?id=3045>

●藤沢市都市マスタープラン

<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/tosikei/machizukuri/toshi/kekaku/masterplan.html>

●広野りおイラストレーション

<https://hironorio.work>